

# 城を歩く会 3月定例会「春季研修会」資料①

## 松平容保と会津戦争

### 大河ドラマ「八重の桜」と秋の「戊辰戦争で敗れた城を訪ねる」の舞台

大田区立入新井集会室

平成25-3-13

山岸弘明

#### 「ならぬことはならぬ」徳川家に忠義を尽くし徹底抗戦した「会津魂」



松平容保



綾野剛 (容保役)



大政奉還 1867年10月。土佐藩主山内豊信が大政奉還を建白。朝幕二元体制の限界を感じた慶喜は、徳川中心の雄藩連合政権を模索し、10月14日これを受け入れて上表した。



保科正之



綾原はるか 山本(新島)八重



新島義と結婚



クリスチャン教育の活況 同志社



八重 新島 夫妻の墓

#### 1 新政府の発足

- 1868 (慶応4)
- 1 鳥羽・伏見の戦い①。慶喜追討令。相楽総三の赤報隊の東進②。列強6カ国、局外中立を宣言
- 3 相楽、偽官軍として処刑②。五箇案の誓文公布。五榜の掲示
- 4 江戸城無血開城③
- 1868 (明治元)
- 4 政体書の制定
- 5 奥羽越列藩同盟結成。上野戦争(彰義隊壊滅)④
- 7 江戸を東京と改称。長岡城の戦い終わる⑤
- 8 天長節を制定。明治天皇、即位の礼
- 9 明治と改元(一世一元の制)。会津の戦い終わる(若松城落城)⑥
- 1869 (明治2)
- 3 東京行幸
- 5 五稜郭の戦い(箱館戦争)終わる(戊辰戦争終結)⑦

#### 2 戊辰戦争

7 五稜郭の戦い(箱館戦争) 1869(明治2)年5月。旧幕府軍をひきいた榎本武揚らが降伏。土方歳三らは戦死。五稜郭は開城となり戊辰戦争が終了。

五稜郭

官軍の進路  
 東海道軍・東山道軍  
 北陸道軍  
 奥羽総督府軍  
 蝦夷地征討部隊  
 山陰道鎮撫使  
 ● 官軍に出兵したおもな藩  
 奥羽越列藩同盟  
 ○ 同盟藩  
 ● 同盟脱落藩  
 ● 庄内兵最大進出線  
 ● 会津兵最大進出線  
 ● 数字 帰順・降伏の月日

4 錦御旗(錦旗) 天皇が「朝敵」の征討を命じる際、軍事的指揮権を委任する意味で、下賜された旗。「白の御旗」と「月の御旗」の二つ1組。

#### 1 鳥羽・伏見の戦い

1868(慶応4)年1月  
 慶喜の辞官納地に憤激した旧幕府の兵が入京し、薩長兵と交戦。しかし新政府軍の大砲や新しい銃に苦戦した。

#### 2 赤報隊の東進

1868(慶応4)年1~3月  
 赤報隊の相楽総三は年貢半減令をかかげて東山道を進撃したが、偽官軍とされ、諏訪で処刑された。1870年、相楽らをいたみ下諏訪に慰塚がたてられた。

相楽塚(慰塚)

#### 3 江戸城無血開城の会談

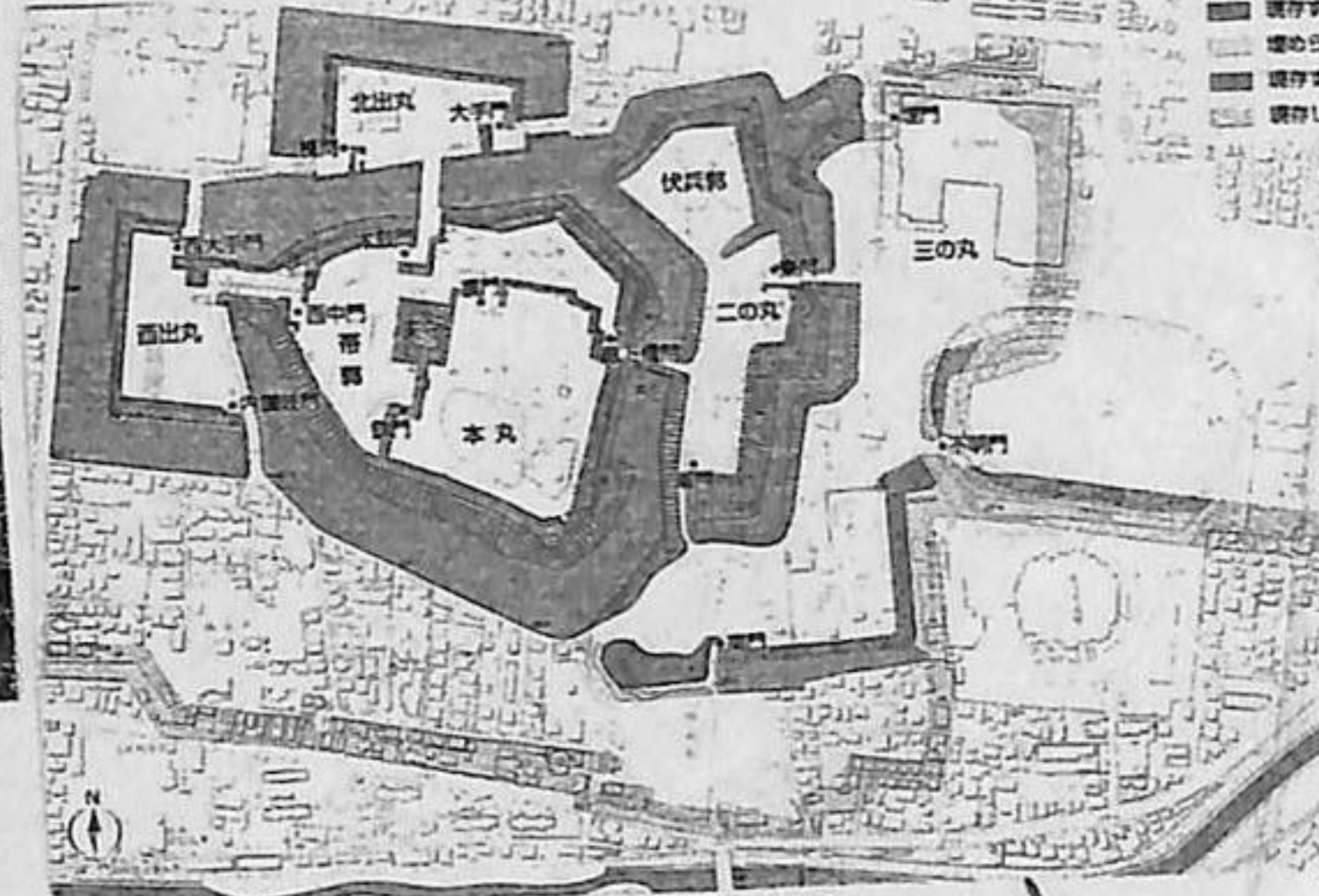
1868(慶応4)年3月13~14日  
 江戸薩摩藩邸でおこなわれた西郷と勝の会談により、15日に予定の江戸城総攻撃は中止、4月、無血開城となった。

#### 5 長岡城の戦い

1868(慶応4)年5~7月  
 局外中立の長岡藩家老河井継之助は停戦を拒否されたため戦ったが、7月落城。

#### 4 上野戦争(彰義隊の戦い)

1868(慶応4)年5月  
 旧幕臣は彰義隊を結成して上野真光寺に拠り反抗したが、大村益次郎指揮の総攻撃により1日で壊滅。



会津若松城

#### 松平容保(左)と新島八重(右)主要年表

天保6年1歳	尾張徳川家支藩高須3万石 松平義建6男として江戸で誕生
弘化3年11歳	会津松平容敬の養嗣子となる 従四位下侍従若狭守
嘉永5年18歳	会津松平9代藩主となる、肥後守
文久2年28歳	京都守護職、京に赴任 尊攘運動鎮圧、公武合体推進
慶応3年33歳	大政奉還で大坂へ退く
慶応4年34歳	鳥羽伏見敗亡で江戸へ帰る 会津で籠城、降伏、永禁固
明治5年38歳	許されて東照宮官司
明治29年59歳	没、会津若松市東山町松平御廟葬

弘化2年1歳	会津藩士山本権八3女に誕生 鉄砲に興味をもつ
元治2年21歳	川崎尚之助と初婚、のち離婚
慶応4年24歳	断髪、男装して出陣、敗戦
明治4年27歳	兄を頼り京都に移る
明治5年28歳	日本最初の女子教師
明治8年31歳	新島襄と婚約、同志社英学校開校
明治9年32歳	日本初のクリスチャン結婚式
明治10年33歳	同志社女学校開校
明治23年46歳	日本赤十字社発足社員 赤十字、クリスチャン教育などに尽力
昭和7年86歳	没、京都同志社墓地葬

「日本のジャンヌダルク」、「ハンサム・ウーマン」、「日本のナイチンゲール」



# 松平容保と会津戦争

## 激動の幕末史に生きた高須4兄弟

### 尾張徳川家支藩・高須松平家3万石

尾張徳川家2代光友の2男松平義行が美濃高須に3万石を与えられて立藩、尾張藩の支藩として西辺警備の役割を担った。2代義孝は尾張綱誠2男から養子、3代義淳は尾張7代宗春が將軍吉宗の方針に反発して謹慎、隠居後の尾張家を相続した。10代義建にはこどもが多く10男9女が生まれた。

2男**慶勝**＝尾張徳川家の養嗣子として相続。藩政改革につとめペリー来航後に国事にあつたが井伊直弼の「安政の大獄」で「隠居、きつと慎み」となった。家督は弟が継ぐが「桜田門外の変」後藩政と国政に復帰、明治維新の戦いは勤皇を貫いて新政府軍に加わり東海道の諸藩を恭順させた。

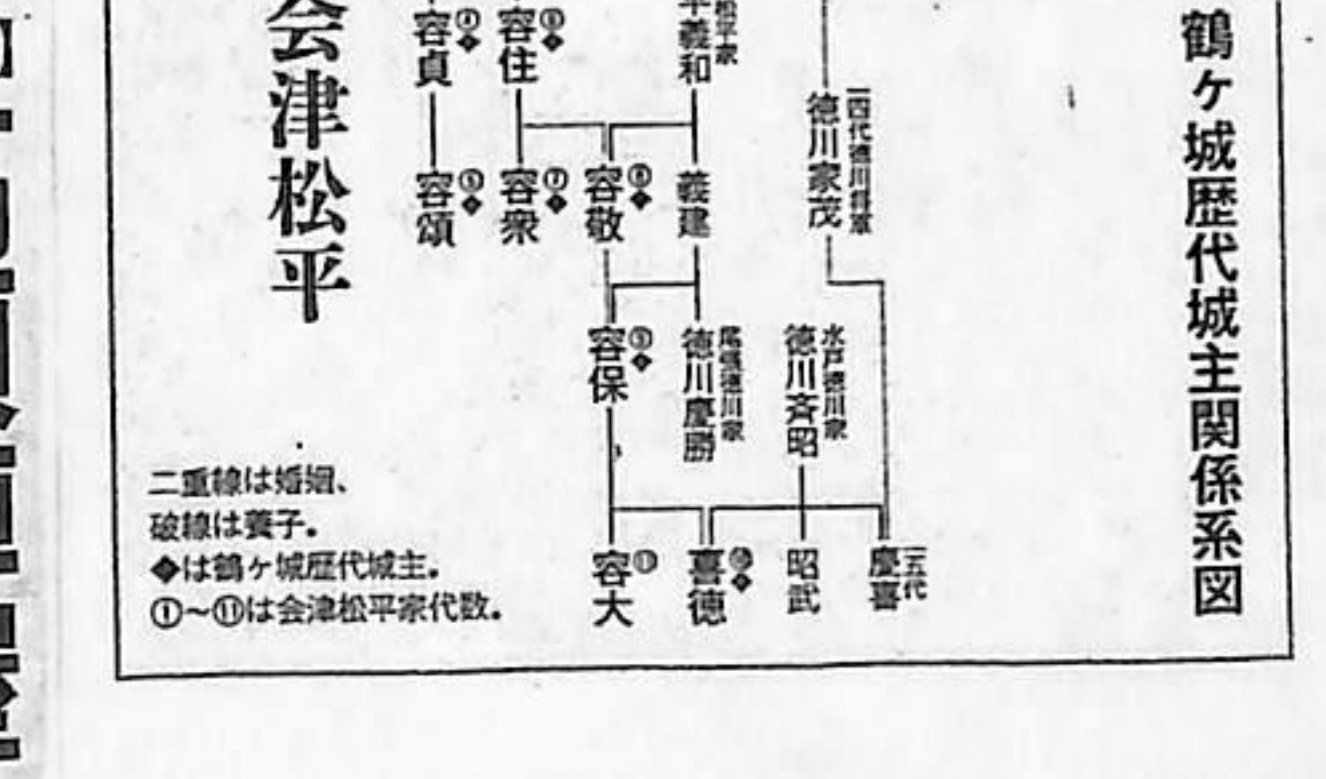
\*平成22年の一泊旅行＝名古屋城見学の帰途、VTRで「幕末知られざる決断、徳川慶勝公」を鑑賞した3男**武成**＝石見浜田松平6万石養子。財政再建をめざすがわずか5年で死没。

5男**義比**＝高須藩11代を相続、のち兄慶勝の隠居で宗家尾張藩を相続する。

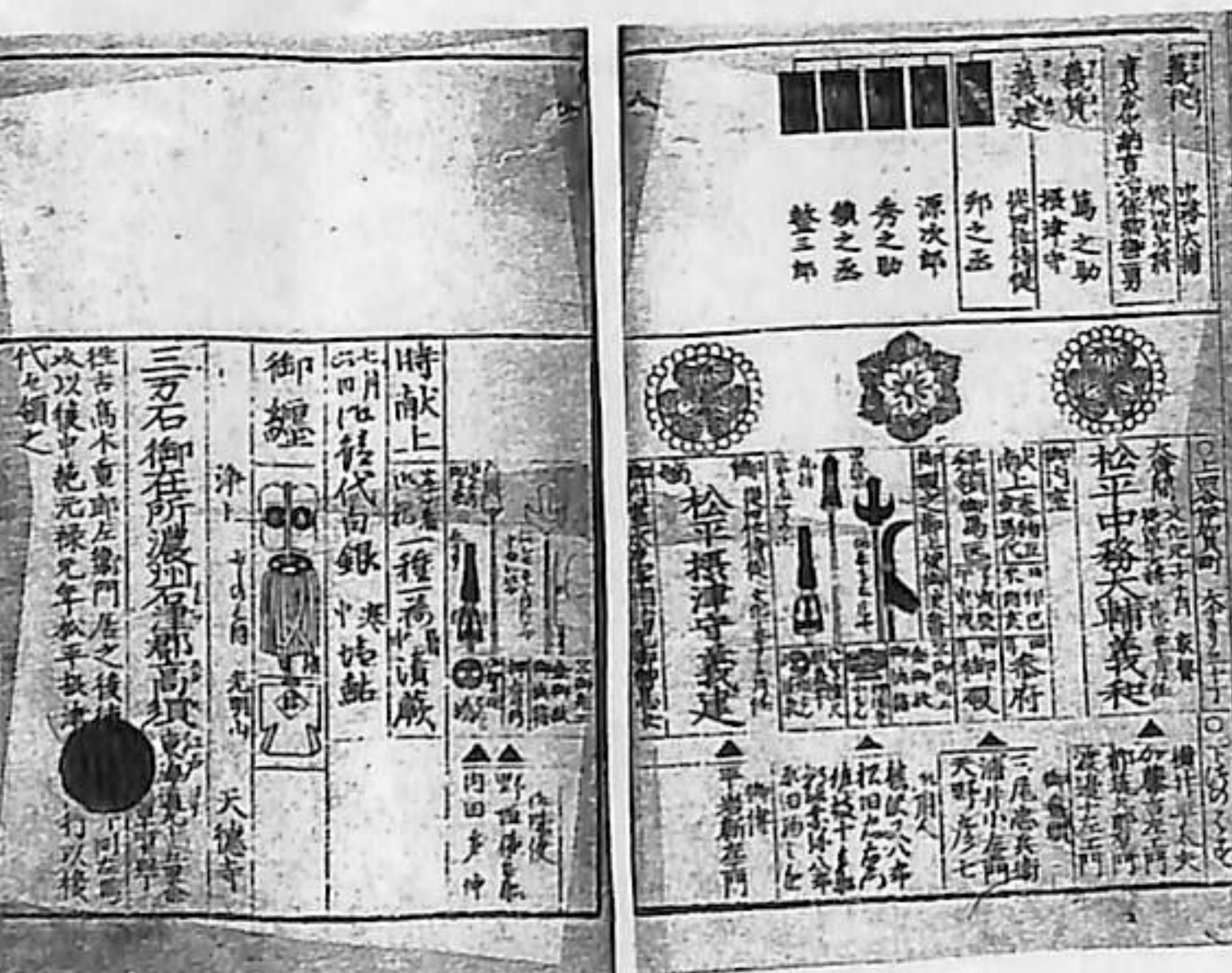
7男**容保**＝会津藩養子。本講座の主演、前出年表参照。

8男**定敬**＝伊勢桑名松平11万石養子。兄容保の強い推挙で京都所司代となり、蛤御門の変、長州征伐など激動の京都警備にあつた。慶応3年の「王政復古」で免職、新政府から帰国を命じられたが15代將軍慶喜や容保とともに大坂城にとどまった。鳥羽伏見の戦いで敗報が届くと慶喜とともに大坂城を脱出、明治戊辰の戦いは会津、函館に転戦、明治2年東京の名古屋藩邸に出頭して降伏した。明治29年日光東照宮官司、41年に没した。

10男**義勇**＝高須藩主となった兄義比の子が早世したので2歳で高須藩を相続したが1年後に病弱のため隠居。高須藩最後の藩主に丹波園部藩から2男小出義生を養子に迎えたが翌3年藩財政が苦しく存続困難として名古屋藩への吸収合併を願い出て新政府が許可した。



**高須陣屋**  
Takahashiya (岐阜県津市)  
美濃  
高須藩の陣屋である高須に初めは松平家かたは、寛政三年(一七二〇)のころ、名古屋藩主徳川家光の二男松平義行が入つて陣屋を構えたが、高須は海抜〇にあり、たびた水害をきたすに悩まされた。四代藩主は水害を避けるため二回ほど西方の野に陣屋を移し、六代藩主の時に再び高須に戻つた。



高須松平家大名出陣

# 家訓を守って最後まで徳川家に忠節を尽す\*松平容保

## 1) 会津藩「保科正之の家訓」

- ①保科正之＝2代將軍秀忠落胤で3代家光の異母弟。異例の待遇をえて会津23万石藩祖となる。
- ②正之の遺訓＝徳川家に忠義をつくせ。他家が徳川家にそむくことがあつてもわが家は決してそむいてはならない。もし藩主をして徳川家に弓引くことあらばわが子孫にらず家臣はそのような者にしたがってはならない。

## 2) 容保、家中の反対を押し切って京都守護職に就任

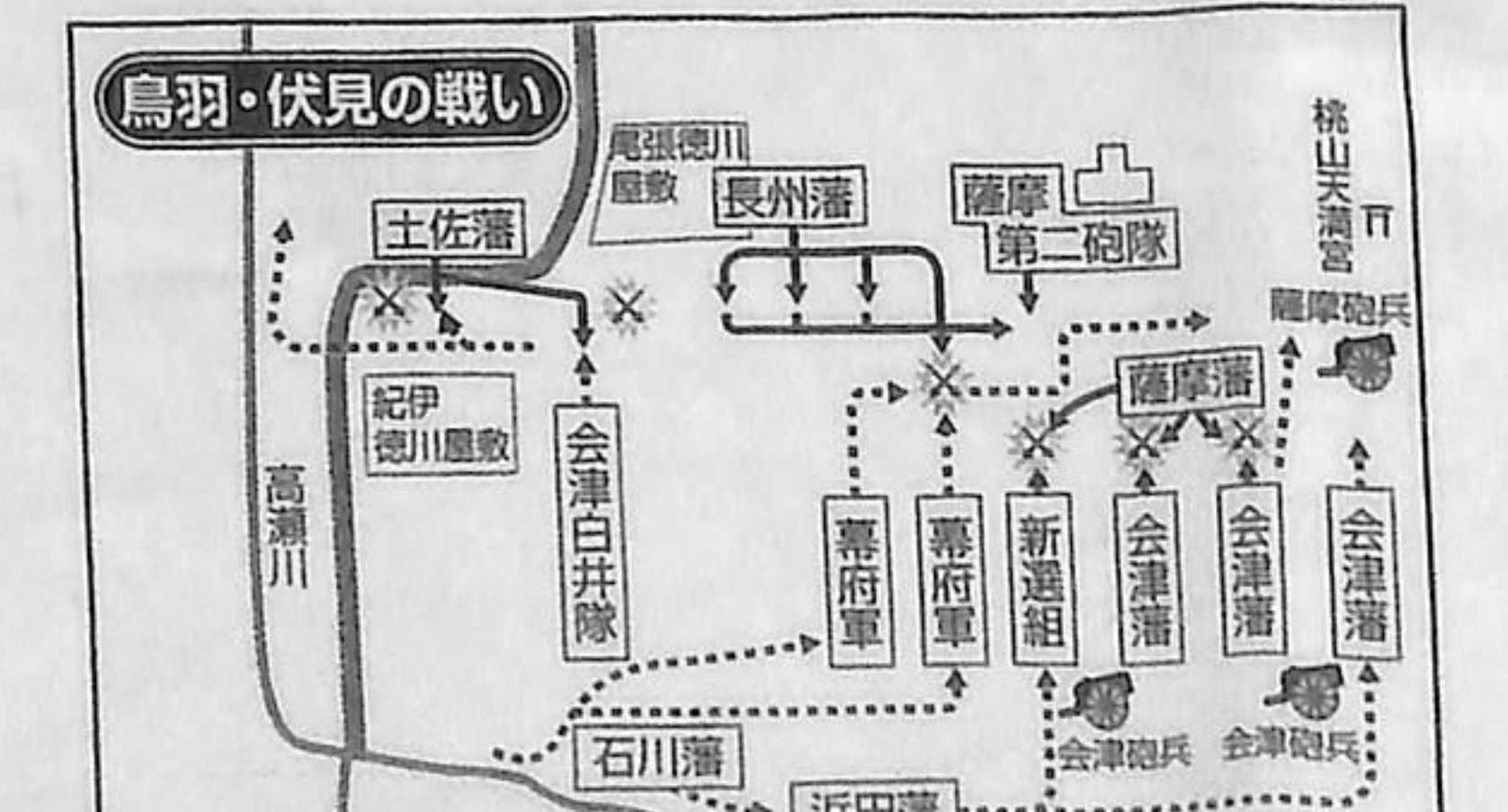
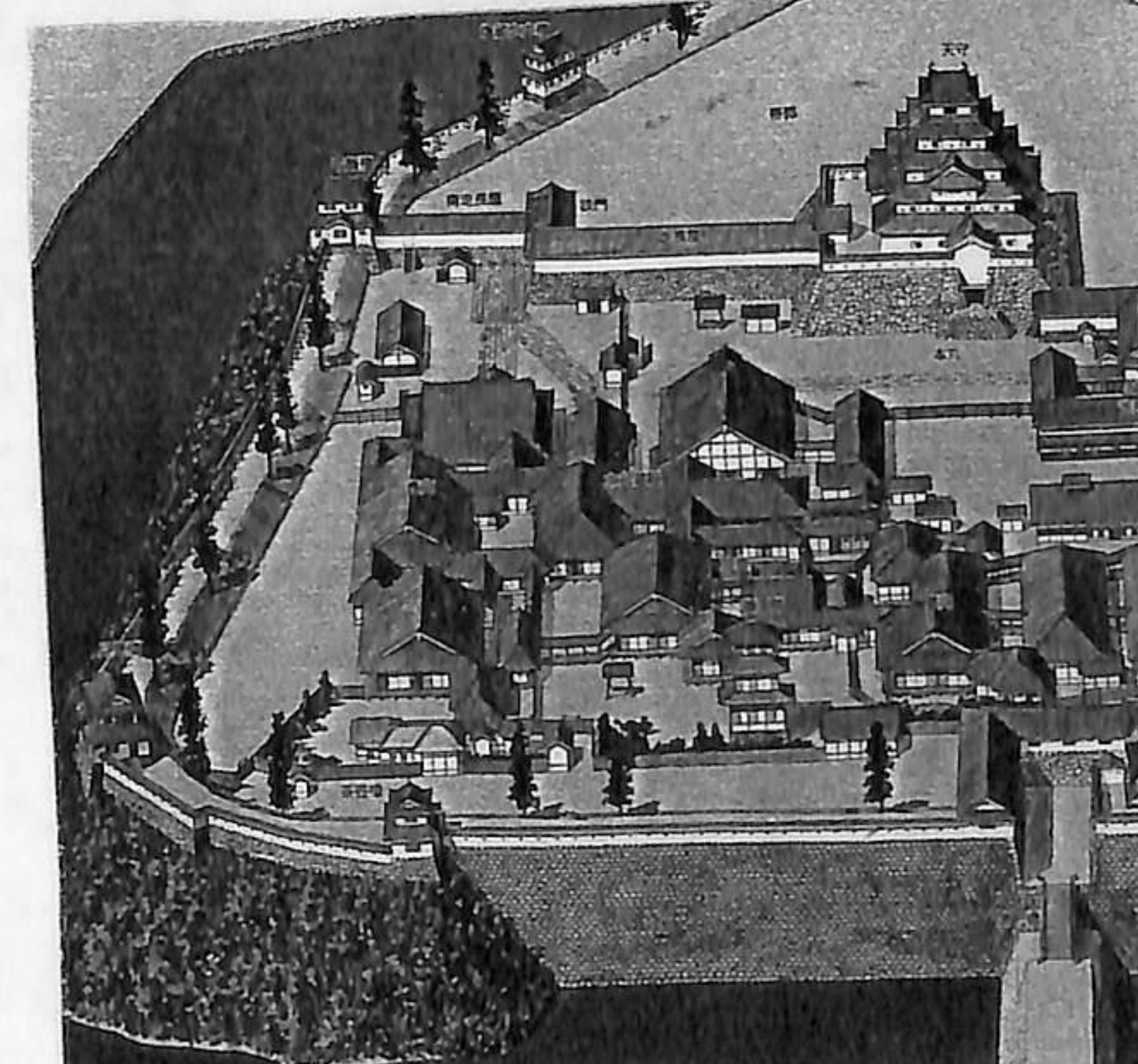
- ①嘉永6年ペリー来航、翌安政元年大老井伊直弼は開国を方針として列強諸国と和親条約、修好通商条約を締結するが、全国で尊王攘夷、反幕府、倒幕の機運が高まり、「桜田門外の変」の直弼暗殺、「坂下門外の変」の老中安藤信正襲撃など幕府要人を標的としたテロ活動が横行する。幕府の威信低下のなか汚名挽回をかけて新設されたのが正之の京都守護職であつた。
- ②容保の守護職就任に国家老西郷頼母らが反対するが本人の決意は固い。文久2年暮れ、兵1000を率いて入洛、京都黒谷の金戒光明寺を本陣とした。容保は実弟桑名藩松平定敬を京都所司代に推挙、預かりの新撰組を加えた3者は結束して京都の警備にあつた。
- ③この間京都では8.11クーデター、池田屋事件、蛤御門の変、長州征伐などの大事件が相次いだ。
- ④容保は朝廷、幕府に忠誠を尽くそうと努力するが激動の波から逃れることはできない。慶応2年反長州のはずの薩摩が長州と結び、頼みの孝明天皇が崩御、翌3年將軍慶喜が大政を奉還する。

## 3) 鳥羽伏見の戦いに敗れ、慶喜にしたがって江戸に逃げ帰る

- ①慶応4年鳥羽伏見の戦いは幕府軍15000、対する薩長軍は5000。幕府軍の主力は会津藩であつた。数こそ3倍と勝つたが兵器は圧倒的に劣つた。また薩長軍に朝敵討伐の「錦の御旗」が立つと総大将の慶喜はまだ戦っている兵士を残して密かに江戸へ逃げ帰つた。戦線を離脱する開陽丸の中に主戦派の容保、定敬兄弟も同行を命じられていた。
- ②慶喜は上野寛永寺に謹慎、容保は登城禁止となり会津へ帰る。



会津若松城



松平家 陸奥会津二十八万石

会津松平家は保科正之を藩祖としている。遠祖は信濃國の保科郷に住んで保科を姓として、高遠に城を築き乱世に威を振つたが、十六世中ごろより武田氏の支配下に入り武田氏滅亡後、関ヶ原合戦には東軍に与つて功あり、二万五千石の大名家になった。

この保科家が徳川氏の血縁となつたのは2代將軍秀忠の三子、幸松丸が七歳のとき、秀忠の命令で、保科正光の養子とからである。幸松丸は正之と名のり、長じて寛永十三(一六三六)年、山形二十万石に移封された。寛永二十年さらに三万石を加増されて、会津若松へ移つた。本知は二十三万石であるが、兄家光三代將軍の補佐役として御家門に列し、南会津地方五万石を南山御蔵入りと称して預けられていたから、実際には三十八万石を支配していた。正之は幼時、高遠城下の建福寺の名僧鉄舟のもとで修行して儒学を長じ、その思想は、幕藩体制による儒教道徳と合致し、文治主義を貫いたが、家光の遺言により四代家綱を輔弼し、宗家への忠誠心を「家訓」として遺した。これがのちの保科松平家の大名としての背骨となつて幕末の悲劇を醸成したといえる。



# 孤城の玉砕戦、会津若松城の攻防

## 1) 奥羽越列藩同盟の結成

- ①慶応4年2月、有栖川宮を東征大提督とする新政府軍が東海道、中仙道から江戸をめざして進撃を開始。東海地方の諸藩は尾張徳川慶勝の説得ですべてが恭順、新政府軍は戦うことなく江戸を包囲した。
- ②4月11日江戸無血開城、5月15日上野戦争で彰義隊討伐、戦線は北へ移る。
- ③新政府軍は仙台伊達藩に会津追討を命ずる。仙台藩の勧めに従い容保も「降伏嘆願書」に調印するが長州藩士で総督参謀・世良修造の強い反対で却下された。世良が薩摩参謀にあてた「奥羽皆敵」の密書を入手したとする仙台藩士が世良を襲って首をはねる。
- ④この事件で情勢は一転した。仙台藩は会津追討を拒否、奥羽越列藩同盟が結成された。

陸奥、出羽25藩

仙台、米沢、盛岡、秋田、弘前、二本松、守山、新庄、八戸、棚倉、中村、三春、山形、平、松前、福島、本荘、泉、亀田、湯長谷、下手渡、矢島、一関、上山、天童

越後6藩

新発田、長岡、村上、村松、三根山、黒川

軍事総督=輪王寺宮(東照宮、寛永寺貫主)、公議所=白石城

- ⑤新政府は東征大総督に奥羽征討を命じ、徹底的な討伐政策を展開した。新政府軍の大攻勢=白河城、棚倉城、泉陣屋、湯長屋陣屋、平城を落とす

## ⑥列藩同盟の崩壊

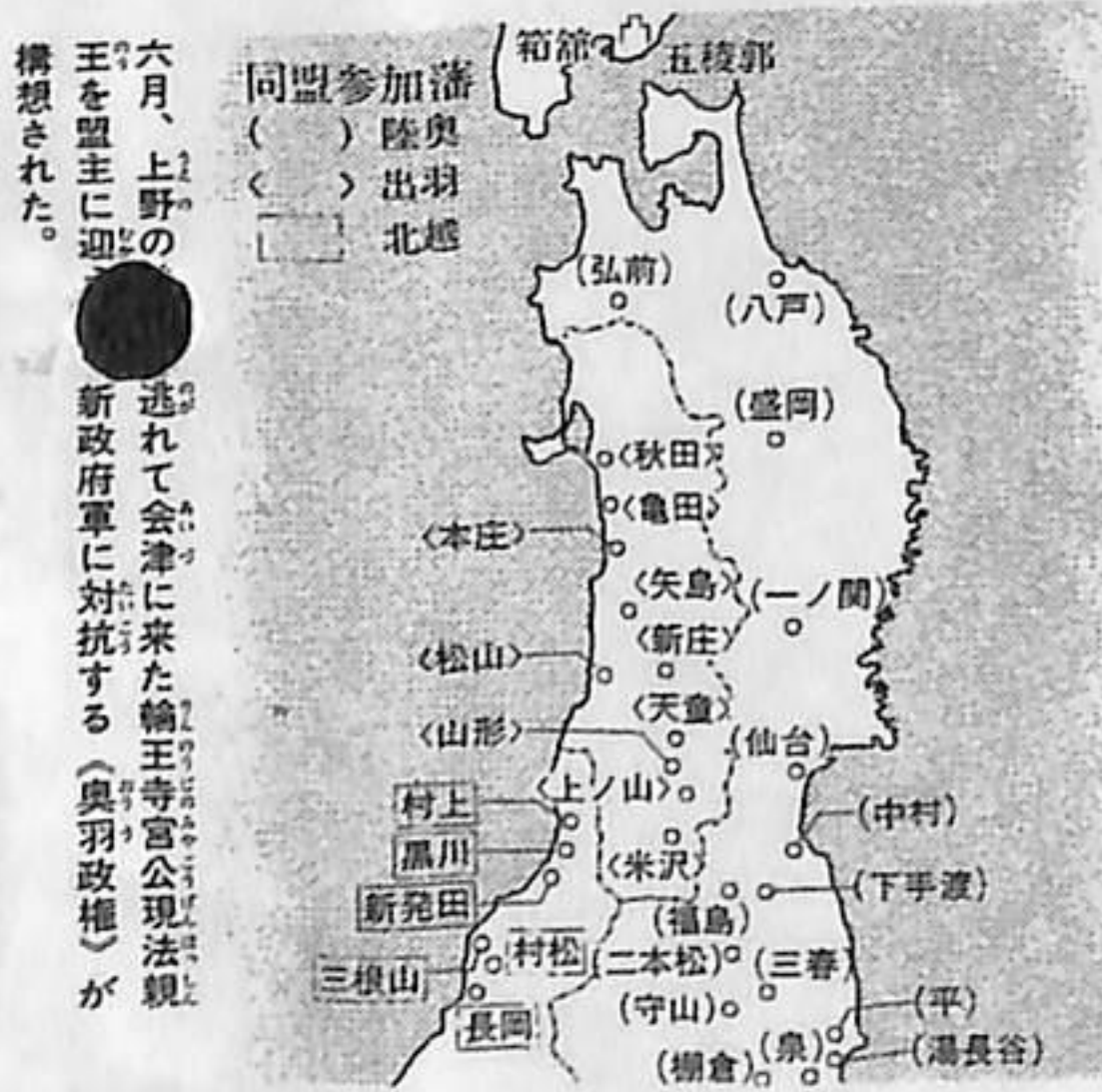
秋田藩、弘前藩、新庄藩の脱退、守山藩、三春藩の降伏。同盟は崩壊への道を進む

## ⑦二本松落城と白虎隊よりすごい「二本松少年隊」の活躍

7月29日元同盟の三春藩を先陣にした新政府軍は大挙して城下に迫る。このとき藩の主力軍は白河口に出陣中で城内は老人と少年、婦女子だけ。木村銃太郎率いる少年隊は大檀口に100匁砲1門を据えて応戦するが多勢に無勢で戦にならない。隊長は銃弾に倒れ、いったん退いてゲリラ戦を展開したが次々と討ち取られていった。城代家老丹羽和左衛門は本丸に火を放って切腹、二本松城は落城した。

## ⑧この日河井継之助の守る長岡城も落城した。

- ⑨8月23日新政府軍は会津城下に迫り、籠城態勢に入る。9月4日米沢藩が、9月15日仙台藩が降伏、会津藩は孤軍無援となって最後の時を迎えた。



会津藩家老・西郷頼母は、ツキのない人であった。その不幸は、自分の意志とはまったく反対の方向に事態が進んでしまっていることにある。

第一は、国力が及ばないの理由に反対したにもかかわらず、藩主松平容保が京都守護職に就任したこと。この結果、頼母は家老職を免れることになる。

第二は、復讐後、鳥羽・伏見の戦いに敗れて会津に帰ってきた容保に、新政府軍へ恭順謝罪すべきだと進言したのに、命令で会津藩の軍事責任者として戦わなければならないこと。この戦いで、何と頼母は母、妻子をはじめ9人の内親を喪失した。

## ツキに見放された男・西郷頼母の3大悲劇



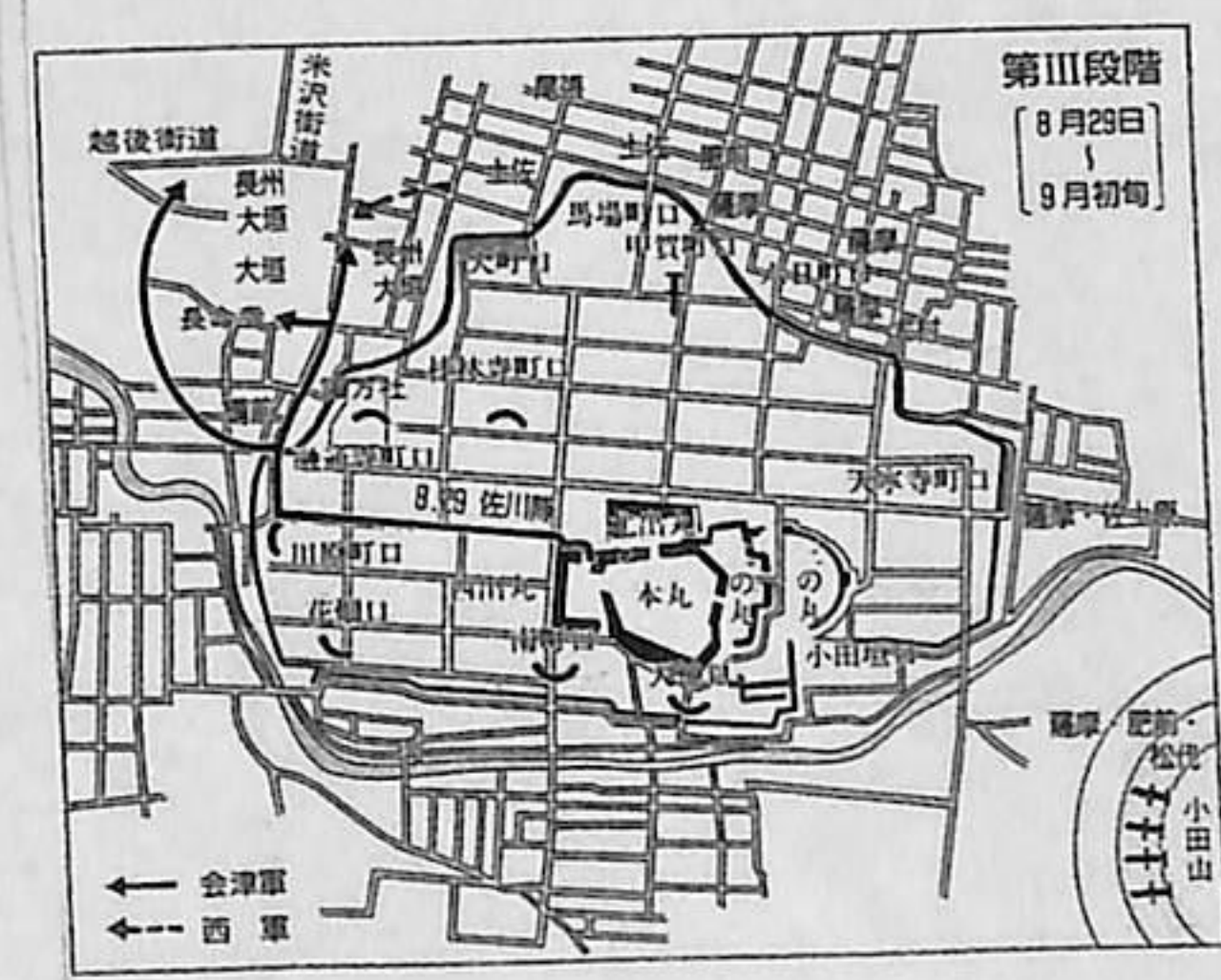
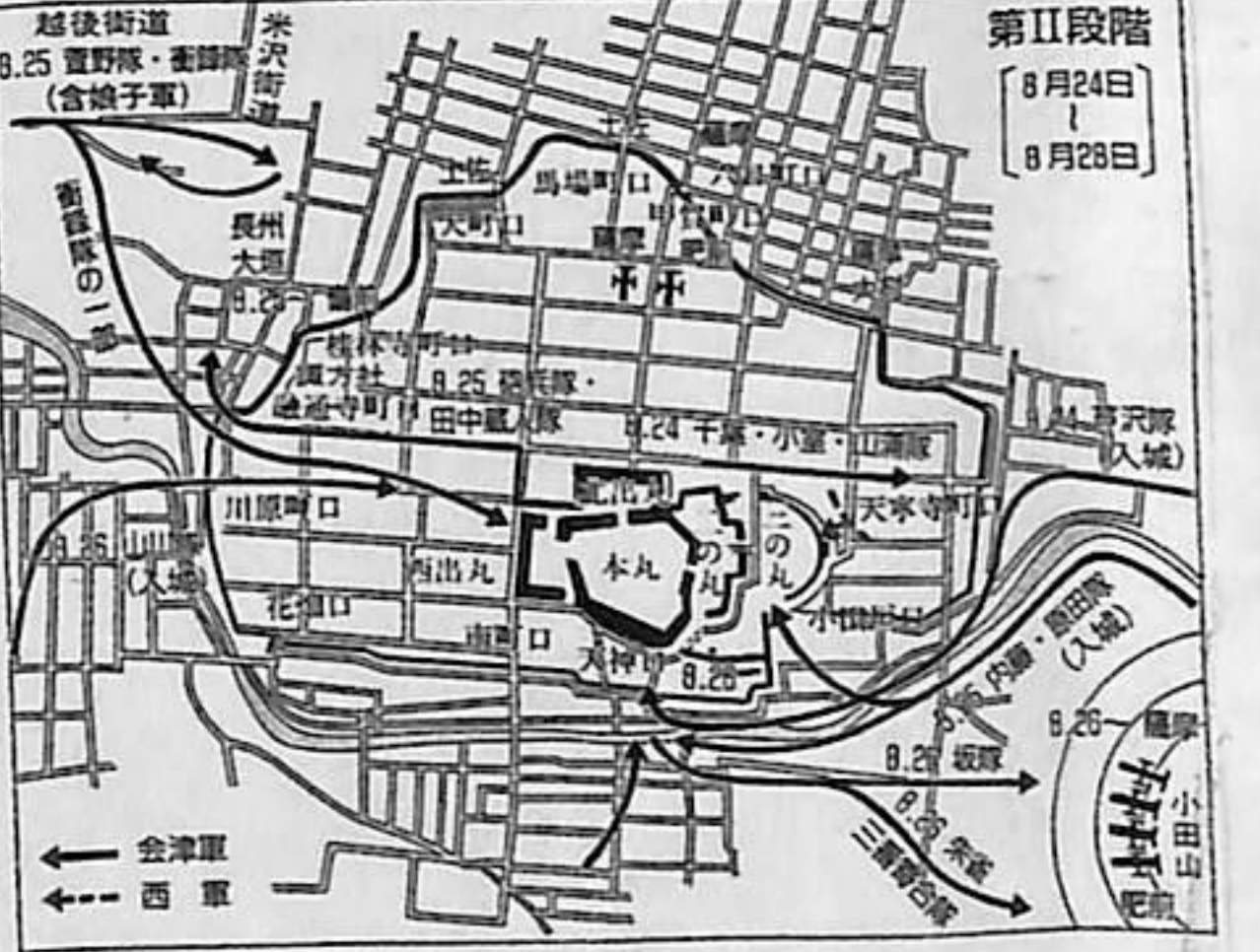
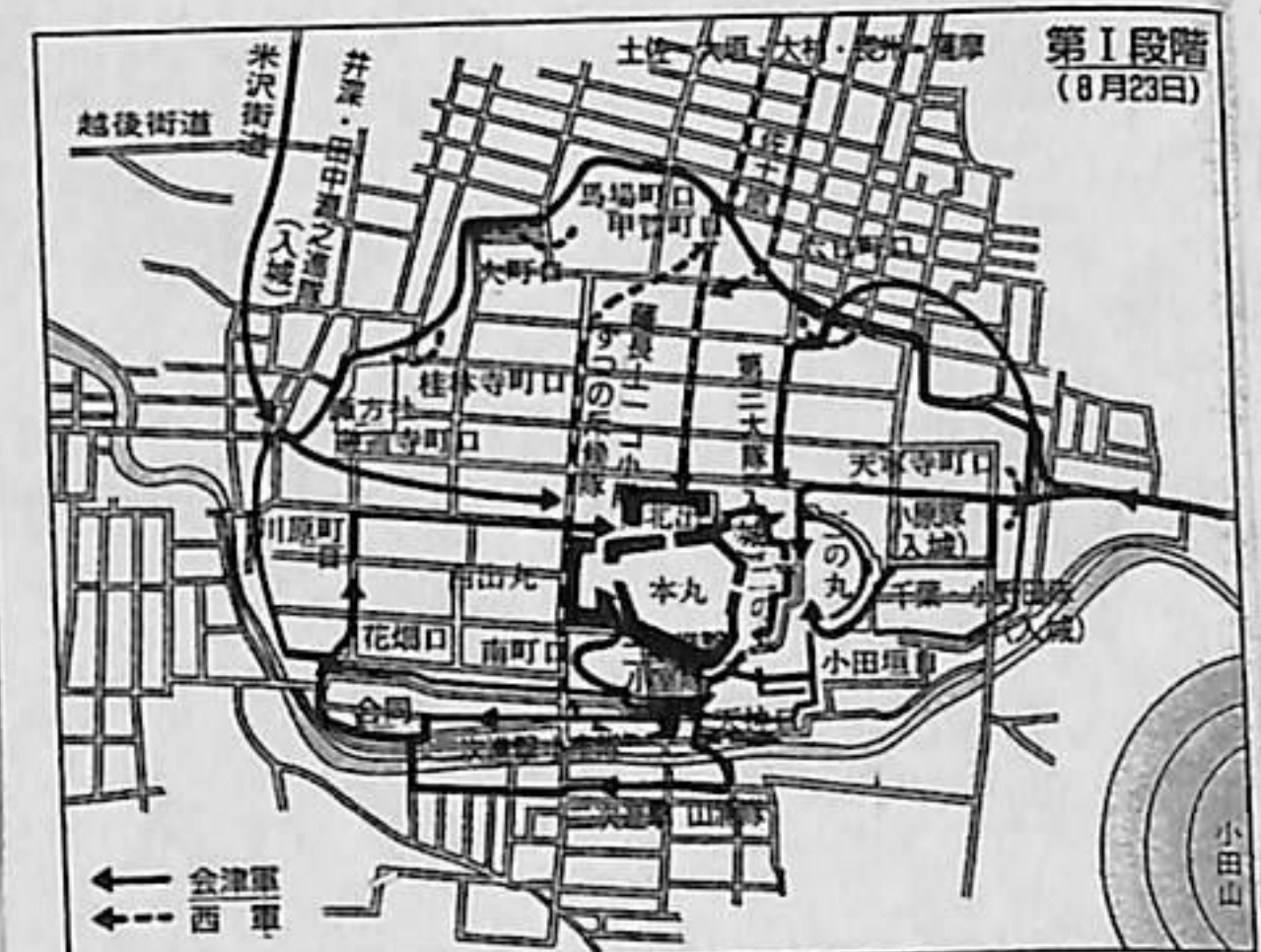
## 東北人のネバリ腰も及ばず 内紛で崩壊した奥羽越列藩同盟

戊辰戦争といわれる一連の戦争には、新政府軍と徳川幕府軍の戦いのほかに、新政府軍と奥羽諸藩の戦いがある。東北や北陸などの諸藩が結んだ「奥羽越列藩同盟」軍は、この地方唯一の異端者・新派を押さえており、はじめは新政府軍に対し断固抵抗していた。そして1868年(慶応4年)5月には、同盟数が増え合計31藩もの大同盟となった。しかし、新派が新政府軍に制圧されると、武器弾薬の補給がなくなり、あっさりと瓦解。同盟諸藩それぞれがそれぞれの思惑が入り乱れ、裏切りが相次ぐ地獄だった。本気で新政府軍と戦ったのは二本松藩、長岡藩、庄内藩、会津藩などの数藩だけという何とも有名無実の同盟であった。

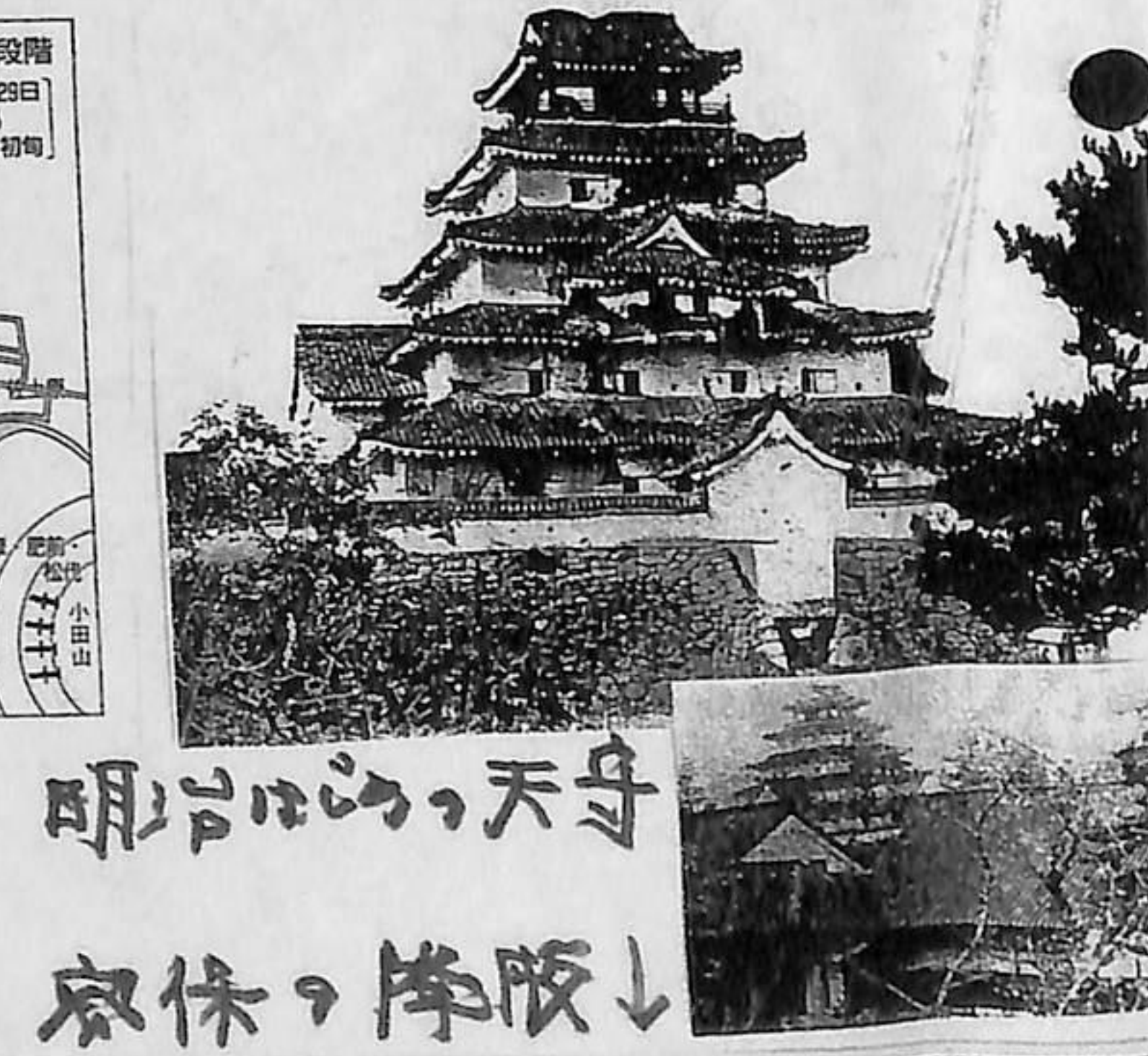
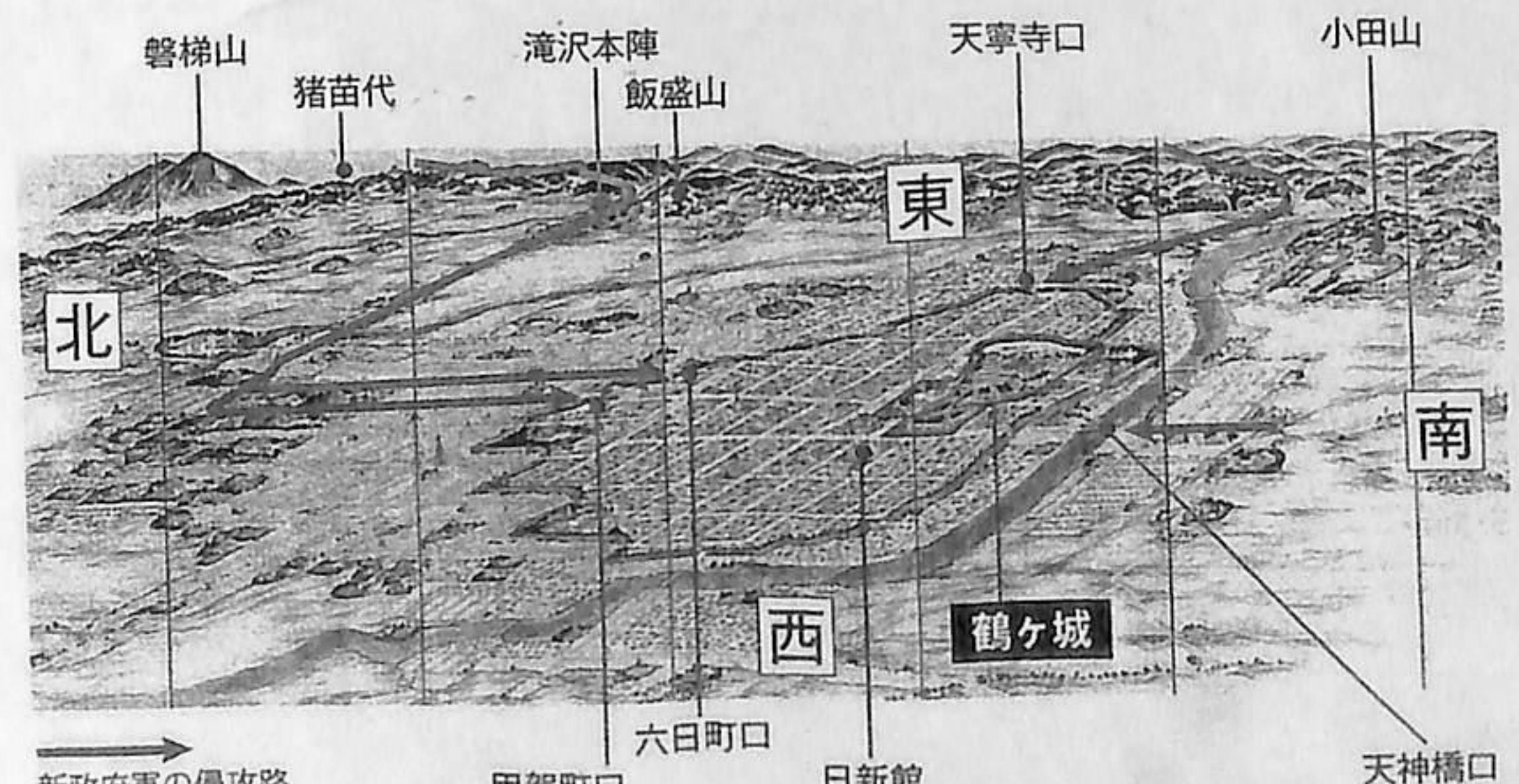


## 2) 激戦の末、無念の降伏

- ①8月20日新政府軍の薩摩、長州、土佐、肥前、大垣、大村、佐土原の藩兵2千は二本松を出発、21日石筵口から母成峠を越え、22日には猪苗代城を陥れ、翌23日には会津城下に達した。
- ②新政府軍は城下や武家屋敷に火を放ち、城は黒煙に包まれた。藩士の家族に城内に入るよう早鐘が打たれたが籠城の足手まといにならないよう多くが自決した。筆頭家老西郷頼母家では長男を城に送り出した後白装束に着替え一族21名が自刃した。
- ②一方長刀をもって立ち上がった女たちもいた。白鉢巻たすき掛けの娘子隊は城下で長州、大垣隊と遭遇、多くが敵弾に散った。
- ③「大河ドラマ」の主演・山本(新島)八重は断髪、大小を腰に、スペンサー銃を手に城に入る。女たちの主な仕事は飯炊き、負傷者の救護、消火活動であったが、八重は城内の砲台に立ち、主力砲を3の丸から豊岡社に移すと夫尚之助とともに砲隊の指揮をとった。
- ④16歳から17歳の少年で編成された「白虎隊」は滝沢峠に出陣、怒涛の勢いで城下をめざす敵軍に迎戦するが撤退、飯盛山で絶望的な光景をみる。城下の火を会津若松城が燃えているものと錯覚、士中二番隊の生き残り20人はその場で自刃した。
- ④若松城東南の小田山を占拠した肥前軍は上野戦争で活躍したアームストロング砲など5門を据えた。9月14日から始まった総攻撃は1日に2000発の砲弾を打ち込み、城内外に炸裂した。
- ⑤城の守りは堅固で最期まで落ちなかったが城内では兵糧が底をつき武器弾薬も不足した。
- ⑥慶応4年9月22日容保はついに降伏。鶴ヶ城は新政府軍に明け渡された。
- ⑦容保は鳥取藩にお預けになり、明治3年嫡男容大による家名再興が許されたが下北半島の斗南3万石に減封となった。
- ⑧容保は明治13年日光東照宮宮司となり、明治26年59歳で没した。



## 会津戦争





# 会津一泊「戊辰戦争で敗れた城を訪ねる」

- ①会津若松城 (別名・鶴ヶ城) = 松平保科23万石、戊辰戦争を戦いぬいた奥州屈指の堅城。ダメージを受けた天守は明治7年に取り壊されたが昭和40年外観復元。層塔型5重5階、天守から走り長屋、南走り長屋、干飯櫓と繋がるながめは壮観、20mをこえる本丸東側高石垣もみごと。
- ②猪苗代城 (別名・亀ヶ城) = 会津藩支城、1国1城令の例外として存続。会津戊辰戦争は自焼して本城に退いた。本丸周辺は亀ヶ城公園となり、石垣や堀が良好に現存している。
- ③二本松城 = 丹羽10万石居城。戊辰戦争は少年隊の活躍で名高い激戦の末自焼。高石垣が続く復元箕輪門口、本丸は安達太良山の絶景。新旧石垣コンクールの感がある。
- ④白河小峰城 = 阿部10万石居城。戊辰戦争で攻撃を受けて落城。「東北石垣造りの3大名城」といわれる急勾配総石垣、天守は発掘調査と絵図面を木造伝統工法復元ブームの先駆けとなった。
- ⑤旧滝沢本陣 (国重文) = 会津戦争で容保が指揮をとり、白虎隊が出陣した前線基地。
- ⑥飯盛山白虎隊の墓 = 会津戦争で散った少年隊士19士が眠る。
- ⑦西郷頼母屋敷跡 = 国家老屋敷。会津戦争で一族21人が自決。
- ⑧新島八重、山本覚馬生誕の地 = 「大河ドラマ」兄妹は砲術指南の家に生まれた。
- ⑨会津武家屋敷 = 7000坪の敷地に西郷邸などを復元。武家の暮らしがわかる。
- ⑩藩校「日新館」跡 = 藩士子弟に「会津魂」を教えた藩校。
- ⑪会津松平氏御薬園 (国指定名勝) = 藩主別荘で薬草園。
- ⑫会津松平家墓所 = 2代正経から9代容保、歴代藩主側室、子女墓がならぶ。お断り = 本番のコースは未定です。ご案内できない所もあります。

つるがじょう わかまつじょうてんしゅくかく  
**鶴ヶ城 (若松城天守閣)** 国  
Wakamatsu-jo Castle  
(Tsuruga-jo Castle).  
[遊覧時間] C-5

至徳元年(1384)に、輩名直盛が東黒川館を築いたのがはじまりといわれ、蒲生氏郷が七層の天守閣を築きました。その後、加藤時代に現在のよう五層の天守閣になりました。戊辰戦争では約1カ月の激しい攻防戦に耐え、難攻不落の名城として知られました。明治政府の命令で取り壊されましたが、昭和40年に再建、平成12年に干飯櫓と南走長屋を本格復元し、平成23年には天守閣の屋根を幕末当時の赤瓦にまがえさせました。国指定史跡。

◆午前8時30分～午後5時 (入場は午後4時30分まで) / 大人500円・小中学生150円・団体(30～99名)大人450円・小中学生135円(100名以上) 大人400円・小中学生120円 (茶室との共通券) ※天守閣のみは大人400円 ☎27-4005 (会津若松市観光公社)

鶴ヶ城、茶室隣りとも、  
◎ハイカラさん・あかべえバス停「鶴ヶ城入口」から徒歩5分

あいつはんしゅ まつだいらけ ぼしよ  
**会津藩主松平家墓所** 国  
The Graveyard of the Matsudairas  
: the Lords of the Aizu Clan. [遊覧時間] A-5

明暦3年(1657)に初代保科正之の嗣子正頼が亡くなったときに造営されました。二代藩主正経から九代容保の墓、歴代藩主の側室、子女の墓が立ち並んでいます。二代は仏式で葬られています。他の藩主はすべて神式の形態をとっています。壮大な規模と歴史的宗教的景観は、わが国屈指の大名墓所として高い評価を受けています。国指定史跡。

◆午前8時30分～午後5時 (入場は午後4時30分まで) / 大人310円・高校生260円・小中学生150円・回有 ☎27-2472

◎ハイカラさん「御薬園」から徒歩10分

おやくえん ばなな  
**会津松平氏庭園 御薬園** [遊覧時間] B-5  
Oyakuen (The Garden of Lord Matsudaira).

殿様の別荘として使われ、会津藩二代藩主正経が薬草を栽培したところから、この名前が付けられました。今も約400種類の薬草が植えられています。国指定名勝。

◆午前8時30分～午後5時 (入場は午後4時30分まで) / 大人310円・高校生260円・小中学生150円・回有 ☎27-2472

◎ハイカラさん「御薬園」から徒歩5分

**二本松城**  
10月8-9日  
会津若松市

**猪苗代城** **白河小峰城**

ひゃくごたいじゅうきゅうしゅ はか [遊覧時間] A-3  
**白虎隊十九士の墓**  
Tomb stones of the Byakkotai Soldiers

白虎隊は戊辰戦争で戦った16才～17才の少年たちで、墓は鶴ヶ城の北東飯盛山の中腹にあります。火に包まれた城下を望みながら少年たちは若い命を散らしました。回有

◎あかべえ・ハイカラさんバス停「飯盛山下」から徒歩5分

さいごう たのち ていあつ  
**西郷頼母邸跡** [遊覧時間] C-5

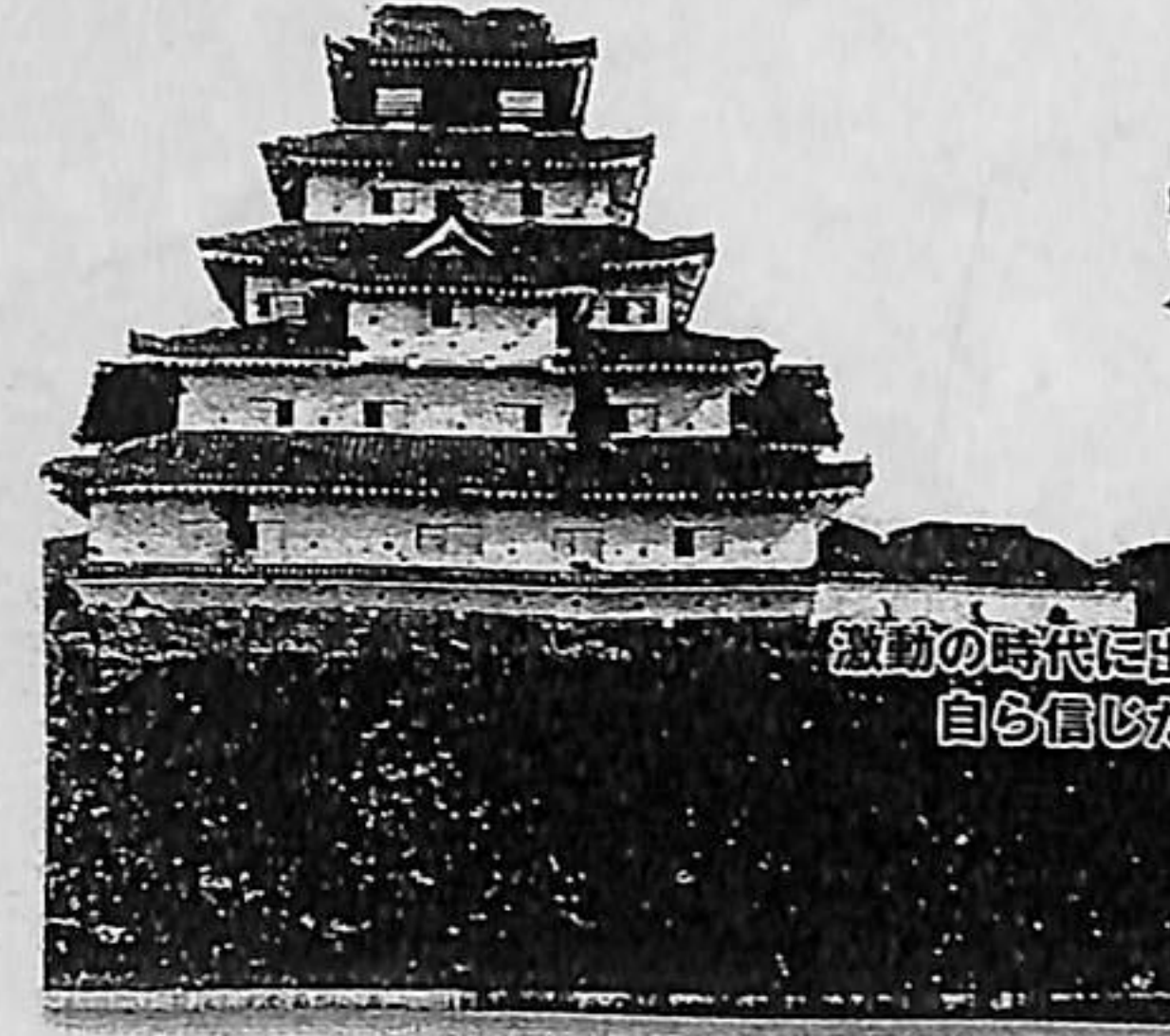
戊辰戦争で西軍が城下町に乱入したとき、家老西郷頼母の家族ら21人は辞世の句を残して自決しました。

◎ハイカラさん・あかべえバス停「北出丸大通り」から徒歩5分

こうぜしじょうあつ  
**神指城跡** [遊覧時間] D-2

慶長5年(1600)会津領主上杉景勝によって計画された未完の城。直江兼統の指揮のもと工事が進められたが、徳川家康の進軍によって中断。現在

# 幕末・維新を戦い抜いた 新選組と白虎隊



激動の時代に出会った若者たちは濃密な人生の中で自ら信じた道を歩み強烈な足跡を歴史に刻んだ

1862年 12月松平容保、京都守護職として(文久2)入京。全戒光明寺に本陣を置く。

1863年 2月 近藤勇、土方歳三ら浪士隊(文久3)に加わり上京。  
3月 将軍、家茂上洛。近藤ら松平容保を訪ねる。  
8月 八月十八日の政変起こる。浪士隊も出陣。

1864年 6月 池田屋事件。(元治元)7月 禁門の変。

1866年 11月 近藤勇、長州尋問使に随行(慶応2)して広島に赴く。

1867年 6月 新選組が幕臣になる。(慶応3)10月 將軍徳川慶喜が大政を奉還。

1868年 1月 鳥羽伏見の戦い。新選組江(慶応4)戸に戻る。  
3月 勝沼戦争に破れる。  
4月 江戸城開城。新選組、千葉・流山に転陣。近藤勇新政府軍に投降。板橋で斬首。土方歳三、宇都宮城攻防戦で足に被弾。  
5月 奥羽越前藩同盟成立。会津藩が白河城を失う。  
7月 会津藩が二本松城を失う。  
8月 新選組が守る母成峠が破られる。戸ノ口原の戦いでも敗走。  
9月 会津藩降伏、鶴ヶ城開城。(明治元)

1869年 5月 土方歳三箱館(現・函館市)(明治2)で戦死。戊辰戦争終結。



力の前に敗走。しかも徳川慶喜は大坂城を抜け出し開陽丸で江戸へ帰ってしまいった。幕軍は四散するしかなかった。戦線は江戸から北上を続ける。甲府城の確保に失敗した新選組は、下総の流山にたどり着くが、ここで新政府軍に囲まれてしまい、近藤勇は投降、土方歳三はわずかに残った隊士を連れて宇都宮、今市と転戦。被弾した松七町町の宿、清水屋に入り、先行して

「新選組と会津藩」  
新選組が会津藩と密接な関係を持ったのは、1863年、幕府の御用として、近藤勇、池田屋事件で死んだ。近藤勇、池田屋事件で死んだ。近藤勇、池田屋事件で死んだ。

た。  
会津藩と薩長藩が宮内省の幕府御用として、京都から一掃した八月十八日の政変では、近藤ら浪士隊も出陣し、御所の警護をつとめた。この変を境に浪士隊は「新選組」となり、会津藩の正式な部隊となる。

「時代は倒幕へ」  
新選組が目覚ましい活躍をみせたのが、池田屋事件である。幕府御用の浪士が御所に火を放つという情報を得た新選組は、旗本池田屋を斬り、改めと称して襲撃、7人を斬り、多くの浪士を捕らえた。長州藩が京都での失地を回復しようと御所の蛤御門に攻めよった禁門の変では、会津・薩摩軍が勝利し、長州を

いた高藤一(戸ノ口阿弥陀寺参照)らの隊士と合流する。会津に入って近藤の死を知った土方は、天守に身を立てて冥福を祈った(p.40参照)。

「会津藩の攻防」  
白河城が落ち、二本松城が破られると、会津藩は一本松から会津に至る母成峠に藩兵や新選組、幕軍の軍勢を配備。三方から攻めてくる新政府軍と戦ったが、1日ももたずに猪苗代城まで撤退した。土方はこの後、新選組の指揮を旧幕軍の大島圭介に託し、自らは仙台に走って榎本武揚とともに戊辰戦争最後の攻防地となる五稜郭を目指す。

中心とする幕府御用派は一掃された。幕府の威信はまた保持されていたが、明皇の崩御により、薩摩藩は手を翻すように長州と同盟を結び、時局は一気に倒幕へと向かっていった。

「戊辰戦争の始まり」  
徳川慶喜の大政奉還により、政権は朝廷に移ったものの、新政府は対する幕府側と薩摩・長州側との思惑の溝は深く、鳥羽伏見の戦いが起こる。会津藩と新選組は伏見街道に主力を置いて戦ったが、薩摩藩の小銃や大砲の圧倒的な火



松平容保は、滝沢村本陣に兵を進め、白虎隊に出陣の命を下す。戸ノ口原で戦って、も圧倒的な兵力で攻めてくる新政府軍相手には白虎隊も後退するしかなく、戸ノ口原へ退き、飯盛山へ上った白虎隊の17名は鶴ヶ城を望みながら自刃した(p.34-35参照)。

会津藩最後の戦いとなる籠城戦は、8月23日から9月21日までほぼ1ヶ月続いた。生き残った白虎隊士らは籠城戦に参加、斎藤一ら新選組は城下でのゲリラ戦を連日している。



和やかな向流の瓦新年会  
平松さんの乾杯が周旋  
大森名誉会長も芳名が書かれた

2月「石けん開城」

